

RCIJ シラバス

- Syllabus 2024 -



認定 RC ベーシック

「認定 RC ベーシック」 講義の詳細

講座名	リスクコミュニケーション基礎
講師名	大杉 春子
講師経歴 自己紹介	<p>コミュニケーション戦略アドバイザー/日本リスクコミュニケーション協会代表理事 レイザー株式会社 代表取締役、株式会社シーボン 社外取締役</p> <p>上場企業・省庁・地方自治体などのパートナーとして、PR 戦略の策定から広報物の制作監修まで支援。コミュニケーション戦略における「攻め」と「守り」の両軸から経営広報の施策をサポート。2020 年日本リスクコミュニケーション協会を設立し、リスク管理から危機管理広報までを網羅した、リスクコミュニケーション人材の育成を展開する。</p>
科目のねらい・到達 目標	リスクコミュニケーションに取り組むために、必要な基礎知識を習得し、課題解決に向けてどのように活動するか知見を習得する。
講座概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. リスクコミュニケーションの定義 2. リスクコミュニケーションの課題 3. リスクコミュニケーションはなぜ必要か？ 4. リスクマネジメントのプロセス 5. レピュテーションコントロールに必要な機能 6. 好事例と失敗事例の比較
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「クライシス・緊急事態リスクコミュニケーション (CERC)」 蛭名玲子著 ・「世界一わかりやすいリスクマネジメント集中講座」 勝俣良介著 ・「企業不祥事の緊急事態対応 「超」 実践ハンドブック」 株式会社エス・ピー・ネットワーク著 ・「コンプライアンスリスクに対するリテラシーの高い組織をつくる~激動の時代を生き抜くための唯一の不祥事予防法~」 大久保和孝著 「企業法務の FIRST AID KIT 問題発生時の初動対応」 田辺総合法律事務所著

「認定 RC ベーシック」 各講義の詳細

講座名	リスクマネジメント基礎
講師名	白井 邦芳
講師経歴 自己紹介	一般社団法人日本リスクコミュニケーション協会理事、一般財団法人リスクマネジメント協会顧問、ゼウス・コンサルティング株式会社代表取締役社長、広報学会会員、GBL 研究所会員、経営戦略研究所講師。これまでに対応したリスクマネジメント及び危機管理案件は上場企業を中心に 3,200 事例に及ぶ。社会構想大学院大学教授（2017 年～2023 年、専門：リスクマネジメント及びリスクコミュニケーション）を経て現在に至る。
科目のねらい・到達 目標	公表された最近 9 年間の上場企業の不祥事のうち、約 80% が意図的に行われた違法行為であったことが公表されている。その多くが経営層の関与と不適切な企業風土により自浄能力を失っている。本講では、こうした不祥事の温床となる原因を分析し、3 線防止の理念に基づく正しいガバナンスの在り方を理解し、実効性を伴う社内コミュニケーションを再確認することにある。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーポレートガバナンス ・ リスクマネジメント
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者委員会ドットコム (http://www.daisanshaiinkai.com/) ・ 企業の危機管理コンサルティング ケーススタディ（白井邦芳 著、中央経済社）

「認定 RC ベーシック」 各講義の詳細

講座名	炎上リスクと SNS 運用基礎
講師名	山口 真一
講師経歴 自己紹介	<p>国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授 博士（経済学・慶應義塾大学）。専門は計量経済学、社会情報学、情報経済論。 NHK や日本経済新聞をはじめとして、メディアにも多数出演・掲載。KDDI Foundation Award 貢献賞、組織学会高宮賞、情報通信学会論文賞（2 回）、電気通 信普及財団賞、紀伊國屋じんぶん大賞を受賞。主な著作に『ソーシャルメディア解 体全書』（勁草書房）、『正義を振りかざす「極端な人」の正体』（光文社）、 『なぜ、それは儲かるのか』（草思社）、『炎上とクチコミの経済学』（朝日新聞 出版）などがある。他に、早稲田大学ビジネススクール兼任講師、シエンプレ株式 会社顧問、株式会社エコノミクスデザインシニアエコノミスト、日経新聞 Think!エ キスパート、日本リスクコミュニケーション協会理事、日本テレビ放送番組審議会 委員などを務める。また、内閣府「AI 戦略会議」を始めとし、総務省、厚生労働 省、公正取引委員会などの様々な政府有識者会議委員や座長を務める。</p>
科目のねらい・到達 目標	SNS 上の炎上リスクについて、事例、実態、適切な予防・対処方法を理解する。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報社会の新たなリスク「炎上」 ・ ネット炎上事例 ・ データが示す炎上の社会的影響と実態 ・ フェイク情報のリスク ・ 炎上の予防・対処方法
その他	<p>以下は参考図書一覧です。 ※読むことが必須というわけではなく、講座の内容を さらに深堀りしたい人向けの参考書という扱いです。</p> <p>山口真一（2022）『ソーシャルメディア解体全書：フェイクニュース・ネット炎 上・情報の偏り』、勁草書房</p> <p>山口真一（2020）『正義を振りかざす「極端な人」の正体』、光文社</p> <p>山口真一（2020）『なぜ、それは儲かるのか：〈フリー+ソーシャル+価格差別〉× 〈データ〉が最強な理由』、草思社</p> <p>山口真一（2018）『炎上とクチコミの経済学』、朝日新聞出版</p>

「認定 RC ベーシック」 各講義の詳細

講座名	リスクコミュニケーションとコンプライアンス・法律
講師名	増谷 嘉晃
講師経歴 自己紹介	<p>増谷法律事務所代表弁護士</p> <p>自動車メーカーで海外営業・マーケティングに従事した後、早稲田大学大学院法務研究科を卒業し、弁護士登録。紛争を起こさないための予防法務から、紛争が顕在化してしまった後の交渉や裁判などの紛争法務まで取り扱う。</p> <p>早稲田大学大学院法務研究科アカデミックアドバイザー、一般社団法人日本不動産仲裁機構協力弁護士、事業承継・M&Aエキスパート。</p> <p>執筆として、『AIビジネスの法律実務』（共著・日本加除出版、平成29年）、『Q&Aリモート新時代の法律実務』（共著・日本加除出版、令和3年）など。</p>
科目のねらい・到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ RC に関して法的に重要なポイントを理解し、実践の際に活用できる基礎知識を習得する。 ・ RC に関係する法律を理解する。 ・ RC に関する法務について理解し、法的解決から契約書作成まで、実践の際に活用できるスキルを習得する
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律とは ・ コンプライアンス ・ 有事の際の説明責任 ・ 広報に関する法律 ・ 弁護士の考え方 ・ 民事と刑事事件の取り扱いの違い ・ 弁護士と連携、対峙するときに気をつけること
その他	さらに理解を深めたい場合は、中村直人編著『コンプライアンス・内部統制ハンドブック』（商事法務、2017年）をおすすめします。

「認定 RC ベーシック」 各講義の詳細

講座名	危機管理の心理学
講師名	粕川 正光
講師経歴 自己紹介	千葉科学大学 危機管理学部 危機管理学科 准教授 専門は、認知心理学・認知科学。筑波大学助手を経て現職。心理学の立場から危機管理に関する人的要因についての研究を主に行っている。日本心理学会、認知心理学会、総合危機管理学会(常務委員)、危機管理システム研究学会等会員。
科目のねらい・到達目標	危機管理者を念頭において、危機管理と関係する心理学の概要を理解し、人間のリスク認知の特徴やリスク認知の歪みについて、危機管理の実践に役立つ知識を習得する。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理の心理学とは ・危機管理とリスク認知 ・リスク認知の次元と判断意思決定に関する理論 ・リスク認知の歪み（バイアス） ・危機管理者としての心構え
その他	

「認定 RC ベーシック」 各講義の詳細

講座名	メディア社会論
講師名	池田 信太郎
講師経歴 自己紹介	<p>ジャーナリスト・地経学アナリスト</p> <p>実業之日本フォーラム 編集長 実業之日本総合研究所 取締役</p> <p>地政学・地経学領域のコンサルティング、シンクタンク、メディア事業を展開する実業之日本フォーラムを率いる。経済安全保障、半導体などのテクノロジーの動向、エネルギー戦略、暗号資産・Web3などの技術動向などの分野を扱う。2000年に日経 BP に入社。2006年から「日経ビジネス」記者、「日経ビジネス Digital」創刊編集長、香港支局特派員、「日経ビジネスオンライン」編集長、「日経ビジネス電子版」編集長などを歴任。2022年に実業之日本社に転じた。</p>
科目のねらい・到達 目標	リスクコミュニケーションのツールの1つとしてのマスメディアの現在地を知る
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜマスメディアは「使える」のか ・世界のメディア産業とニュース受容の現在地 ・メディア企業のビジネスモデル ・メディアと政治性 ・メディアとのリスクコミュニケーション5か条
その他	

「認定 RC ベーシック」 各講義の詳細

講座名	BCP/BCM の基礎
講師名	昆 正和
講師経歴 自己紹介	BCP 策定・気候リスク管理アドバイザー、文筆家。一般社団法人日本リスクコミュニケーション協会理事。企業の BCP 策定・改善／気候変動リスク対策・適応策に関するアドバイス・講演・執筆活動に従事。著書に『今のままでは命と会社を守れない！ あなたが作る等身大の BCP 』（日刊工業新聞社）、『山のリスクセンスを磨く本 遭難の最大の原因はアナタ自身にあった（ヤマケイ新書）』（山と溪谷社）など全 14 冊。雑誌やウェブへの寄稿・連載など多数。趣味は登山と読書。
科目のねらい・到達 目標	大地震や気候変動災害が経営に与える影響を理解するとともに、自社の BCP 策定・運用業務に従事するに足る基礎知識とスキルを獲得すること。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・企業を取り巻くリスクの特徴（主に大地震と気候変動） ・リスクが顕在化したときの経営への影響 ・BCP の意義・目的・基本的な仕組み ・BCP 策定プロセスの概要 ・BCP 完成後の継続的な改善サイクル（BCM）の必要性
その他（推薦図書の 紹介）	気候変動の影響が顕著になるにつれて、脱炭素とともに「脱成長」にも注目が集まり始めている。いくら再エネとか EV とか SDGs とか言っても、その一方で底なしの経済成長と富の蓄積を貪欲に追求している限り、気候変動が解消することはない。成長に依存しない次なるシステムとは何か。その道すじが描かれているのが『資本主義の次に来る世界』（ジェイソン・ヒッケル著、東洋経済新報社）である。気候危機の時代を担うリスクコミュニケーター必読の書と言ってよいだろう。

「認定 RC ベーシック」 各講義の詳細

講座名	リスクコミュニケーションの実践
講師名	久井 直人
講師経歴 自己紹介	株式会社アンティル 取締役 大学卒業後株式会社ベクトルに入社。同グループの PR 事業子会社アンティルにて各種 PR 業務に従事した後、ベクトルチャイナに転籍し中国へ駐在。帰国後、戦略プランニング部門にて、コミュニケーション活動全般の戦略プランニング及び実施マネジメントに従事。再びアンティルに戻り現職。その他、リスクコミュニケーションサポート、メディアトレーニング、企業・大学・自治体他各種セミナー等での PR・コミュニケーションに関する講演・講義などを行う。
科目のねらい・到達 目標	リスクコミュニケーションは起こした事象以上にその対応如何で大きくレピュテーションが変わる。本講座では対応方法のイロハについて、まずは机上で学び頭に入れていただきたい。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクコミュニケーションにおける 3 つの観点・2 つの原則、そして 3 つの R ・ Readiness 準備 ・ Response 対処 ・ Recovery 回復 ・ 失敗例
その他	